

ZORING

が導く新たな出会い feat.林業カード

三陸中部森林管理署 鍵谷 桜
齋藤 千明



先日、研究活動の一環で岩手へ来県された鹿児島大学 農学部
奥山 洋一郎助教と情報交換する機会がありました。

奥山氏は、森林環境教育の研究をされており、当署の国有林内で活動している大船渡市立末崎中学校の総合学習の取組みを知り、訪ねていただきました。

以前、「遊々の森」(学校などと森林管理署長などが協定を結ぶことにより、国有林をさまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして継続的に利用できるようにする制度)について研究されていたそうで、近年の森林環境教育の現状や、学校林の設置・活用状況、活用しやすい学校林とは、など全国の事例について話を聞かせていただきました。

また、普段の大学での講義の様子のほか、学外で講師を務める林業アカデミーやフォレストワーカー研修の話など、指導者の視点に立った林業についても話題が及び、鹿児島大学で開発した「林業カード」の紹介をしていただきました。

「林業カード」は片面には木材生産に使用する機械のイラスト、価格、生産性、経費情報が、もう片面には生産システムに応じた生産性などが記載されているカードです。実践的な林業のロールプレイングができることや専門的な情報量が記載されている事が特徴的でしたが、イラストがわかりやすく、難解さはあまり感じませんでした。イラストと情報量のバランスは、当署で開発したカードゲーム ZORING においても、直感的にプレイできるよう制作メンバー全員で気を配った点です。



市内の中学生に ZORING を体験してもらった際に、本来のルールとは別にいわゆるデュエルゲーム(トレーディングカード等で対戦して遊ぶこと)のように遊ぶ姿が見られましたが、「林業カード」を使用した大学生でも同じような姿が見られたとのこと。情報量の多さは、カードの新たなルールや使い方を創造させる可能性を秘め、プレイヤー側の何気ない行動に、本来のルールにとらわれない活用のヒントが詰まっています。そのような、制作者のうれしい発見についても話題が盛り上がり、貴重な情報交換の時間を提供していただいた奥山氏に感謝いたします。

今年度も既に ZORING 活用の依頼を受けており、新たなプレイヤーとの出会いが楽しみになりました。

